

# 確かな学力の向上を目指す指導方法の研究 —言語活動を充実させた指導をとおして—

【羽生市教育委員会】

- 1 学校・学年・教科 中学校・全学年・全教科
- 2 ねらい 全教科等の指導をとおして、言語活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力を育み、確かな学力の向上を図る。
- 3 取組内容

仮説1：各教科において、記録・要約・説明・論述といった活動に取り組むことで、言語に関する能力が高まり、確かな学力の向上につながる。

(1) 仮説1を具現化するための実践

① 手立て1：言語活動の充実を図る授業実践

- ア 全教科において、「言語活動を取り入れた学習活動」を【〇〇中シェアタイム】として意図的に設定し、授業者が意識して言語活動を行う。
  - a 少人数での話し合い活動を実施する。
  - b 話し合ったことを発表する場面を設定する。
  - c 他の人の意見を聞いて、自分の考えを深めたり、さらに話し合いを進める。
- イ 各自が取り組んだ問題の解き方や自分の考えを発表する場を授業の中で設定する。
- ウ 生徒同士による教え合いの活動で、自分の理解したことを自分の言葉で相手に伝える。
- エ 学習カードや自己評価カードを継続してまとめさせ、課題の把握や授業の振り返りを行う。
- オ 家庭学習においては、基本用語等を反復練習させる課題を出し、基礎基本の定着を図る。



【〇〇中シェアタイム】

② 手立て2：学習規律を確立するための取組

- ア 「〇〇中授業の約束」を全教室に掲示し意識させる。
- イ 教師が授業前に教室に行き、タイム着席を徹底する。
- ウ 聴く姿勢は、話す人の方を向いて耳と目で聴く。
- エ 発表の仕方などは、繰り返し呼びかけていく。
- オ 授業の最後に振り返りをさせ、「〇中授業の約束の取組」について評価をし、意識の持続を図る。
- カ 全教科で統一して行い、〇中全体の規律を向上させる。

**〇中授業の約束**

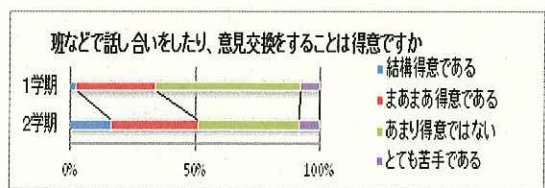
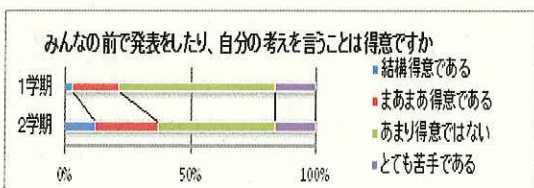
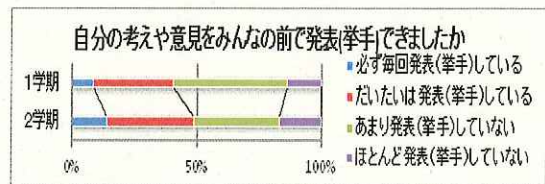
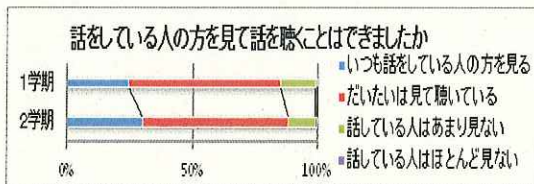
授業の前

- 忘れ物をしない
- 学習用具は休み時間に準備しておく

授業中

- タイム着席をする
- 授業のあいさつは、大きな声で「お願いします」
- 「ありがとうございます」
- 授業中は、私語を慎み、集中する
- 聴くときは、話す人の方を向き、内容を聴き取る
- すすんで発表しよう
- 発表の仕方
  - しっかり手を挙げる
  - 指名されたら「はい」と返答をする
  - 考えをまとめて発表する
- 「……です」「……ます」

※「〇〇中授業の約束」に関するアンケート結果（1学期と2学期の比較）





仮説2：特別活動における話し合い活動を充実させることによって、言語に関する能力を高めることができる。

(2) 仮説2を具現化するための実践

① 手立て1：話し合いのルールを作る。

- ア 話し合いの進め方
- イ 話し方
- ウ 聞き方

**話し合い活動のルール**

～話し合いの進め方～  
 ① 意見を出し合う(意見を反対してもらい)  
 ② 意見について疑問を出してもらい  
 ③ 賛成意見、反対意見をだしてもらい  
 ④ 決定する(多数決は最終的な方法とする)

～話し方～

- ・ 根拠をはっきりとさせて
- ・ 具体的な例をあげてに話すように
- ・ 場に応じた声の大きさや速さで

～聞き方～

- ・ 話し手の顔を見て聞く
- ・ 自分の考えと比較しながら聞く

【全教室に掲示】

② 手立て2：学校行事や学級会等の取組に、発表・説明・討論といった場面を設ける。

- ア リーダーの生徒による話し合い活動例
    - a 学期末に行う学年集会の企画運営  
毎学期末に代表委員が学年ごとのまとめの集会の企画運営を行う。
    - b 学年レク大会の企画運営
  - イ 学級の中で話し合う活動例
    - a 学級目標決定のための学級会
    - b 学級の諸問題を解決するための学級会
  - ウ 学級で話し合った後、学年代表委員会等で話し合う活動例
    - a 学年ごとの行事に向けての話し合い
    - b 生活向上キャンペーンの実施  
学年ごとに学校生活上の課題を話し合い、生活向上のためのキャンペーンを行った。どのような内容で、どのように行うかを学級で話し合った後、代表委員の話し合いにより詳細な活動内容を決定した。
  - エ 学級で話し合った後、全代表委員会等で話し合う活動例
    - a 「目指すべき〇〇中生としての姿」の決定  
生徒会提案→代表委員会(趣旨説明)→学級討議(学級代表が司会)→生徒会本部(再検討)→生徒総会(決定)
    - b 生徒総会
- ③ 手立て3：行事を振り返り、記録・発表させることで表現力を育てる。
- ア 記録・発表をさせることによる表現力の育成
    - a 各学期を振り返って(始業式・終業式・修了式における作文の発表)
    - b 行事・集会での代表生徒の発表
  - イ 各行事の振り返りの掲示
- ④ 手立て4：ワークシートを使い、書く活動を通して自分の考えや感じたことを明確にする。
- ア 書く活動を通して自分の考えや感じたことを明確化させる取り組み
    - a ワークシートを活用した学活・道徳の授業の展開
    - b ワークシートを掲示することによる意見の共有化



4 成果と課題

(1) 成果

- 各教科において、「言語活動を取り入れた学習活動」を「〇〇中シェアタイム」として意図的に設定したことによって、生徒の話し合いや意見交換をする場が大幅に増え、自分の意見や考えを伝えることに進んで取り組もうとする生徒が増えてきた。また、伝えるだけではなく、相手が何を言おうとしているのかをしっかりと聞く姿勢も向上した。教育に関する3つの達成目標の「規律ある態度」における「話を聞き発表する」に関する達成状況が、初めて全校平均80%を超えた。
- 教師が、言語活動に必要な「基礎・基本の定着」と「その活用」に向け、教科会において意見交換を計画的に行った結果、指導力の向上を目指した授業改善が図られた。
- 自分が理解している内容を相手に伝える学習を積み重ねることによって、伝える生徒、伝えられる生徒双方とも、各教科における基礎的・基本的事項の定着が図られた。
- 学校行事等での代表生徒による進行やあいさつが、原稿の棒読みではなく、自分の言葉で相手の反応にも気遣いながらできるようになった。

(2) 課題

- 今後も、「言語活動」の意義やねらいを明確にし、教科の目標を達成するための手段としての「言語活動」に、意図的・計画的に取り組んでいく。
- 各教科等において、自分で考え判断したり、それを表現することができるように、自己表現する学習活動をより多く設けていく。
- 「〇〇中シェアタイム」の内容や形態を常に見直ししながら、目標達成に向けて工夫改善していく。